

まえがき

我が国における既製コンクリート杭は、昭和9年のRC杭の開発を初めとして、PC杭・PHC杭・SC杭等、種々の改良・開発を重ね、今日では土木・建築構造物の建設に欠くことのできない主要資材として、極めて重要な役割を担っています。

既製コンクリート杭は、工場において徹底した品質管理のもとに製造され、確実でかつ安全な杭基礎の材料として需要家各位の御期待に応えられるものと確信しておりますが、近年、構造物の大型化、軟弱地盤上への建設や低公害工法での施工など基礎に対しては厳しい条件での使用が増大しています。

これに伴い、基礎杭も大径化・長尺化の要請や新たな工法開発など、より高度な設計・施工技術が求められるようになっていきます。

(社)コンクリートパイル建設技術協会は、このような社会的要請の多様化・高度化に的確に対応しつつ、我が国の土木・建築構造物の安全性向上等に資するため、コンクリートパイルの設計・施工技術の進歩改善に関する調査・研究その他必要な活動を通じて、関連技術の向上を図り、もって我が国の産業および国民生活の向上に寄与することを目的として昭和63年12月に建設大臣より設立許可を受けたものであります。

この様な目的の基に、当協会の事業の一環として「既製コンクリート杭—基礎構造設計マニュアル（土木編）」の第1版を平成4年度に刊行いたしました。第2版は、「道路橋示方書・同解説・下部構造編及び・耐震設計編（以下、道示という。）」（日本道路協会）など基礎杭に関する主な基準類が改訂されたのに伴い改訂し、今回はSI単位化への対応と前述の道示改訂および既製コンクリート杭に関する最近の研究成果を盛り込み、第3版として改訂いたしました。

どうか、設計に携わる方々が本書を有効に活用して頂き、既製コンクリート杭に関する御理解がより一層深まることを期待しております。

社団法人 コンクリートパイル建設技術協会

会長 鈴木基之